

あまご



第 95 号

2018 年 3 月

日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>



2016年に四日市で相次ぎメガソーラー建設計画が判明し、波木町と山田町に建設が計画されている里山で当会が野鳥の調査を行った結果、サシバの営巣が確認されました。地元の方と連携して反対運動が行われ、その一環として私は引き続き2017年も足見川沿いでサシバの観察を行いました。

1. サシバの観察

サシバの営巣場所は昨年の調査でおおよその見当がついていたため、そこを集中して観察することにしました。5月中は観察に行っても姿は確認できず今年は飛来していないのかと心配されましたが、6月に入るとサシバ雄の餌運びが頻繁に観察され、2017年も営巣が確実となりました。6月上旬は雄のみしか観察できませんでしたが、中旬になると営巣場所の近くの高木にとまっている雌の姿が確認できるようになりました。そして雄が餌を運んで来ると雌がその餌を受け取り巣の中へと入っていきます。雄はそれを確認すると、また狩りへと出かけていきます。おそらく6月上旬は雌が孵化したばかり

の雛をあたためていたため姿を見せなかったようです。6月中旬になり気温も上昇し雛の綿羽が抜け幼羽に換わると保温の必要もなくなり、雌は巣を離れ周辺で天敵の監視と自分の餌を探すために高木へとまるようになりました。

このころになると、昼過ぎに雄と雌のランデブー（求愛）飛行が見られるようになり、つがいで円を描くように上昇して見えなくなるまで高く舞い上がっていき、それが30分以上続きます。その間、巣の見張りはいないはずで、この時に天敵の襲撃があったらどうするのかと心配させられました。

目次

足見川のサシバ 2017-----	2
表紙の言葉-----	2
『願いが叶った県知事意見』	
足見川メガソーラー建設計画-----	4
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化	
第11回 オバシギとコオバシギ-----	5
子どもたちと野鳥観察会-----	10
全国鳥類繁殖分布調査-----	11
今冬のミヤコドリ一斉カウント結果-----	12
理事会報告-----	13
事務局だより-----	13
野鳥記録-----	14
宿泊探鳥会案内-----	16
探鳥会報告-----	17
編集後記-----	20

表紙の言葉

ヒレンジャク

度会郡玉城町 西村 泉

もうそろそろ来ているんじゃないかなど思っていた矢先、鳥仲間のHさんからの連絡で、運よく出会うことができました。

場所は、宮川堤にある松井孫右衛門神社。生茂るクスノキにヤドリギが、まるで大きな鳥の巣のようにいくつも付いています。ヤドリギの実が大好物のヒレンジャク、この日は巣ごもりしたように、なかなか出てきてくれませんでした。しばらく待っていると、ようやく2羽のヒレンジャクを見ることができました。

3年前 勝田池にヒレンジャク、キレンジャクの群れがきたことがありました。池の周りの木にはヤドリギは一つもなかったのですが、何を食べていたのでしょうか。私は、ほとんど出会ったことがないので、ヒレンジャクとキレンジャクは謎だらけです。第一同じ仲間なのに、それぞれ緋色・黄色の羽をもっていること自体が不思議。さらに顔が中国の京劇にでてくる役者の隈取りのよう、その妖艶で高貴なイメージと奥深さが重なってとても魅力的な鳥です。



雄から餌を受け取るサシバ雌

2. ヘルパーの存在

私の心配をよそに毎日のように、つがいのランデブー飛行は続けられますが、ある出来事が起こりその心配は杞憂であることが分かります。6月15日昼にランデブー飛行が終わりしばらくすると、巣の周辺でサシバの警戒音が響き渡ります。そして上空をオオタカが通過すると同時にサシバが一斉に飛び立ちました。私はその状況を必死にカメラに納め静まった後に写真を確認してみるとオオタカを追跡するサシバが写っています。しかし、サシバは成鳥が同時に3羽も写っていました。

それまで、つがいだけだと思っていたので私は混乱してしまいました。猛禽に詳しい方に伺うと、継続して繁殖に成功している巣ではまだ繁殖に参加しない若鳥が生まれた巣へ帰ってきて、親の繁殖を手伝うことがあるそうです。「その様な場所は貴重ですよ」とその方は仰っていました。



ヘルパーの若鳥

それから以前に撮った写真を確認すると確かにサシバは羽色の特徴から3羽に識別できましたので、この営巣地にはつがいの他にヘルパーが1羽存在していることが分かりました。

3. サシバの巣立ち

6月下旬になると雄とヘルパーが頻繁に餌を運びます。そして7月5日の午後には観察へ行くと、巣の近くの枯れ木に見慣れないタカの姿がありました。写真を撮り拡大して確認すると紛れもなくサシバの幼鳥でした。しかも2羽もいます。まだおぼつかない感じで木にとまり、親鳥から餌を運んでもらい食べていました。後日、徐々に飛べる様になったのか1羽でしっかり高木にとまっている姿が確認できるようになりましたので無事に巣立ちに成功したようです。



巣立ち直後のサシバの幼鳥

4. 貴重な里山

この足見川沿いの里山には業者が依頼した調査員の報告書を見ると私が観察していた波木町以外にも山田町と八王子町にもつがいが確認されました。合計3つがいがこの周辺で繁殖していることとなります。それ以外にハチクマの飛来やオオタカ、チョウゲンボウの姿も確認されています。このような貴重な里山は四日市にはここにしかありません。それを開発すれば取り返しのつかないこととなります。

今回、三重県知事意見書が発表されましたが、これは事実上中止要請と見て良いと思います。しかし、この意見書には強制力がありません。業者には真摯に受け止めて自省していただきたいと思います。



三重県知事への署名提出

四日市市内に計画されている足見川メガソーラー（大規模太陽光発電設備）の建設中止を求める署名を平成 29 年 10 月 17 日に四日市市長へ提出、その後（H29/12/9）同様の署名を県知事へ提出しました。県主催の市民の意見を聞く聴取会（H29/12/14）および県環境影響評価小委員会（H29/12/25）を経て平成 30 年 1 月 18 日付けにて環境影響評価準備書に対し、県知事意見が公表されました。

その内容は、署名や聴取会で私たちが訴えた環境保全の考え方を全面的に取り入れた、素晴らしい意見書となっています。建設の中止や縮小、調査不足や準備書の不備など行政の意見としては、今までに類を見ない厳しい意見書となっています。

以下に、環境保全に関する意見の概要を記載させていただきます。

詳細は三重県環境生活部のホームページをご覧ください

(URL <http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000712539.pdf>)

『県知事意見の概要』

総括的事項の中で

『本事業について県環境影響評価委員会の過程で事業自体を実施すべきでない、安易に事業を認めることは、今後の環境アセスメントに過根を残すなど、複数の委員から極めて強い反対意見があった。これを踏まえ最大限の環境保全措置を講ずること』としている。

さらに、『事業区域や周辺は、絶滅危惧種のサシバやホトケドジョウが生息しており、いかなる代償措置を講じても生物への大きな打撃は避けられないことから、東エリア（事業全体の約 70%）全体を残すべきである』ことも指摘している。

生態系の項では

『「サシバの保護の進め方」では、営巣木から 500m 以内である「高利用域」の開発を極力回避する事とされているように、大規模な森林伐採は避けべきであり、東エリアに生息するサシバ（波木ペア）は消失する可能性が極めて高く、近年サシバの著しい減少を踏まえると、東エリアでは森林伐採を行うべきでなく、東エリア全体の残置の可能性を追求する事』とも述べている。



建設予定地に生息するサシバ（波木ペアのヘルパー）

この他、水質、地形、地質、温度や景観への影響を懸念する意見が取りまとめられています。今後、事業計画の中止、縮小を大いに期待するところですが、事業者がこの意見書を捉えてどのように反映するのかが注目されます。

皆さんの署名へのご協力、支援に感謝すると共に、今後とも更なるご支援をお願い致します。



シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化

—連載 11 回 オバシギとコオバシギ—

津市 今井 光昌

オバシギの和名の由来は「尾羽鳴」と言う説と「姥鳴」と言う説があります。「尾羽鳴」だと尾羽に特徴があるシギかと思いますが、特に目立った特徴を尾羽に感じません。「姥鳴」は動きに機敏さがなく、足も頸も短めな体型から老婆を連想させることからきているようですが、スマートな体型でなくても老婆ではオバシギに失礼な気がします。オバシギもコオバシギも三重県中部では泥質の強い干潟や海岸に入ることはずなく、雲出川河口のような砂泥質の干潟に入ることが多い。水田に入るとはごく稀にしかありません。松阪市近辺ではオバシギは春秋の渡り共に数羽から数十羽が毎年見られますが、渡来数が 50 羽を超えることもありません。春の渡りでは成鳥が、秋の渡りでは幼鳥が主で、特に秋の成鳥の渡来は稀です。コオバシギも秋には 10 羽前後の幼鳥が渡ってきますが、オバシギ同様、秋に成鳥が渡来することはごく稀にしかありません。春の成鳥も秋の幼鳥もオバシギよりコオバシギの方が数が少なく、特に春はコオバシギの渡来がなかった年もあり、渡来しても 1 羽か、多くて 2 羽です。

オバシギとコオバシギ

図 1 はオバシギ夏羽群に 1 羽のコオバシギが混じっています。オバシギ夏羽は顔から胸・腹は白く、胸に黒褐色の縦斑と脇にも黒斑があります。コオバシギ夏羽は顔から腹が赤褐色で黒色斑はありません。また、オバシギ群の中にコオバシギが入ると体が一回り小さいこともあり、夏羽の場合は両種の識別は容易にできます。図 2 の幼鳥では左端のオバシギと中央のコオバシギはほぼ同じ大きさです。コオバシギはオバシギより体が小さいのが普通ですが、両種とも個体差があるので、大きさは参考にしかならないこともあります。オバシギ幼鳥とコオバ

シギ幼鳥の野外での見分け方として上面の羽色の違いを見るのが分かり易いと思います。オバシギの肩羽や雨覆の羽縁は白く、背・肩羽は黒褐色の軸斑が明瞭なのに対し、コオバシギは軸斑がぼんやりして全体が灰色っぽく見えるので、羽色の違いが識別の助けになります。嘴の長短（コオバシギはオバシギより短い）や、体の大小だけでは距離や姿勢などもあり分かりづらい時もあるので、背の黒味が強く見えるか、一様な灰色に見えるかが野外で識別する際の判断材料になります。



図 1 夏羽 2013.04.07

中央はコオバシギ、それ以外はオバシギ



図 2 幼鳥 2013.08.27

中央はコオバシギ、それ以外はオバシギ



羽衣の比較

オバシギの腰は白く無斑（図3）で、コオバシギの腰には褐色の斑があります（図4）。翼下面はオバシギの方が白く（図5）、コオバシギは灰褐色の斑があるので翼下面は褐色がかって見えます（図6）

図7は上がオバシギで下がコオバシギです。飛行時にはオバシギもコオバシギも上面に白い翼帯が出ます。オバシギの嘴は長く翼帯は細い。一方、コオバシギは嘴が短く翼帯は太い。両種の腰の斑や翼下面の斑の有無、翼帯の太さの違いには成鳥・幼鳥に関係なく特徴が出ます。



図7 オバシギ幼鳥（上）とコオバシギ幼鳥（下）



図8 オバシギ幼鳥 2011.08.27



図9 コオバシギ幼鳥 2011.08.27

幼鳥

オバシギ幼鳥の上面は白い羽縁と肩羽の黒褐色の軸斑が目立ちます (図8)。

一方、コオバシギ幼鳥は軸斑が褐色で羽縁の白さも強くなく上面全体が一様ですが、肩羽や雨覆の黒色のサブターミナルバンドが明瞭です (図9)。



図10 軸斑が黒褐色の模様のあるタイプ



図11 軸斑が一様な褐色のタイプ

コオバシギ幼羽は淡色の羽縁とその内側にサブターミナルバンドがあり軸斑が一様ですが、稀に軸斑に黒褐色の模様のあるものもあります (図10、図11)。

第1回冬羽



図12 オバシギ第1回冬羽 2017.10.31



図13 コオバシギ第1回冬羽 2010.10.05

雨覆や三列風切の大部分が幼羽で肩羽に灰褐色の冬羽が出ているオバシギ第1回冬羽（図12）とコオシギの第1回冬羽（図13）です。オバシギに比べコオバシギの上面は淡く、胸の黒褐色斑も弱いので、オバシギより全体が淡く見えます。

成鳥夏羽

オバシギの夏羽は背・肩羽に赤褐色斑があり胸の黒色縦斑が強い（図14）。

コオバシギも背・肩羽に赤褐色斑が多くありますが、胸の黒色斑はなく、顔から腹にかけて鮮やかな赤褐色です（図15）。



図14 オバシギ成鳥夏羽 2009.05.29



図15 コオバシギ成鳥夏羽 2010.10.04

オバシギ 第1回夏羽



図16 2014.06.19



図17 2012.05.30



図18 2017.07.08

シギ・チドリの第1回夏羽は外見が成鳥夏羽とほとんど変わらない種もいれば、冬羽のような羽衣で第1回夏羽を終える種もあります。図16の左から2個体目がそうです。6月中旬過ぎであるにもかかわらず、冬羽のような羽衣で他の成鳥夏羽とは羽色が異なります。図17は5月30日の第1回夏羽で、

オバシギ成鳥 夏羽後期



図19 2009.08.06

図19は8月6日の成鳥です。8月になると摩耗で羽縁が擦り切れ黒ずんだ羽衣になります。三重県ではオバシギもコオバシギも越冬することはありません。成鳥も幼鳥も冬羽に換羽する前に渡去します。

図20はこれまでに観察できた中で最も冬羽への換羽が進んだ成鳥です。上面に灰色の新羽（冬羽）が目立ちますが旧羽も残っています。

図18は7月8日の第2回冬羽に換羽中の羽衣ですが、背・肩羽に黒褐色の羽や橙色斑がある夏羽が見当たりません。7月になっても特徴のある夏羽が出ず、肩羽に新しい灰色の冬羽が出ています。第1回夏羽では成鳥のような夏羽は出ないまま第2回冬羽になっていくと考えられます。

オバシギ成鳥 冬羽に換羽中



図20 2016.09.02

最後に

図21は2007.10.21のコオバシギです。10月であれば冬羽に完全換羽しているのが普通だと思いますが、まだ冬羽がほとんど出ていません。冬羽への換羽がかなり遅れています。シギ・チドリの場合、このコオバシギに限らず、換羽の早い個体と遅い個体では多くの種で2・3か月の差が見られます。



図21



松ヶ崎小学校での野鳥観察会

1月20日(土) 9:30 快晴 この日は冬とは思えない穏やかな小春日和。野鳥の会のメンバー4名が、松阪市立松ヶ崎小学校の児童6年生(15人)を対象に約1時間半の野鳥観察会を行いました。コースは、学校裏の堤防から漁港をめぐり水門から通学路へぐるりと回りました。

まずは簡単な挨拶のあと、双眼鏡の扱い方や注意事項を伝え出発。子どもたちは、双眼鏡や望遠鏡を使ってカモを見るのは初めなので、とても新鮮で驚いたのでしょう、カモを見つけると元気いっぱい大騒ぎでした。女の子たちは、ヒドリガモを見て「黄色の羽がかわいい」といい、男の子たちは、オオバンを「アフラックや!」と嬉しそうに観察していました。

漁港に来たことのない児童もいるらしく、みんないろいろなカモを見つけ楽しそうでした。水門のところではカワセミがいましたが、全員が見られなかったのが美しいコバルトブルーのカワセミをぜひ見せてあげたかったなど少し残念に思いました。

学校に戻り、観察会のまとめとして代表的な鳥を図鑑で確認し、手に触れることが出来ないカモを同じ重さのお米で体感したり、カモの羽を見てもらいました。最後に「学校の周りだけでもたくさん鳥がいるので興味をもって観察してみてください」と呼びかけると、みんなは笑顔で頷いてくれました。

今回の観察会は、同校西出校長先生からご連絡をいただき「学校からたくさんのカモが見えるのに、どんな鳥がいるかわからないので観察会を」との熱心なご要望があって実現しました。これからもできる限り協力していきたいと思えます。

このたびは、西出校長先生はじめ担任の先生・保護者の皆様 お世話になり有難うございました。野鳥の会の今井さん、中村さん、小野さん、お疲れさまでした。とくに今井さんには、悪天候を想定して前日まで資料づくりに尽力していただきました。



《観察された鳥》

マガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、カルガモ、ハジロカイツブリ、セグロカモメ、ユリカモメ、ズグロカモメ、カワウ、スズメ、ヒヨドリ、ツグミ、ヒバリ、トビ、カワセミ、イソシギ、オオバン、コガモ、アオサギ、メジロ、オカヨシガモ、ウミネコ、カラヒワ、ホシハジロ、ハシボソガラス 計25種



しろちどり第 87 号、91 号でもお知らせした「全国鳥類繁殖分布調査」が 2016 年から 2020 年まで行われています。三重県の状況を図 1 に示します。これはルートセンサス (既に決められているルートでの調査) の状況で、進捗率約 50% です。今年の繁殖期には、特別な事情がない地域の調査を完了したいと考えています。調査の担当が決まっております、まだ調査していない方はぜひ今年調査してください。また、諸事情で今季の調査が難しい場合は、事務局、三曾田までご連絡ください。



「分布図作成ワークショップ (滋賀)」の様子

2018/02/10 に、この調査の取りまとめをしているバードリサーチの主催 (日本野鳥の会滋賀、滋賀県立琵琶湖博物館の共催) で、琵琶湖博物館で「分布図作成ワークショップ (滋賀)」という催しがあり、私も参加してみました。

滋賀県ではルートセンサスがほぼ完了しているので、全国に先駆けてこのワークショップを行ったということでした。このワークショップでは、その時点での滋賀県の繁殖調地図をチェックし、誤りと思われるデータを修正し、ルートセンサスでは確認できなかった鳥の情報を補うといったことを行いました。それにより、より正確な分布図を作ることが目的ということでした。

当会もこれに倣い、図 2 のような形で調査を進めます。まず、(1)「ルートセンサス」を行い、(2)「独自調査」でそれを補完、そして最後に、会員みなさんの (3)「随時調査」の情報を重ねていって、最終的に漏れのない繁殖調地図を完成させていきます。

会員みなさんには、引き続き「随時調査」をお願いします。といっても、まずは日ごろの活動の中で繁殖の状況を記録してもらうことが大事。もし、みなさんの住んでいる地域で、スズメやツバメが繁殖していないという結果になったとしたら、その記録が重要な意味を持つわけです。

随時調査の報告については、もう少し手軽にできるように検討中です。これについては総会の頃にお知らせ予定です。

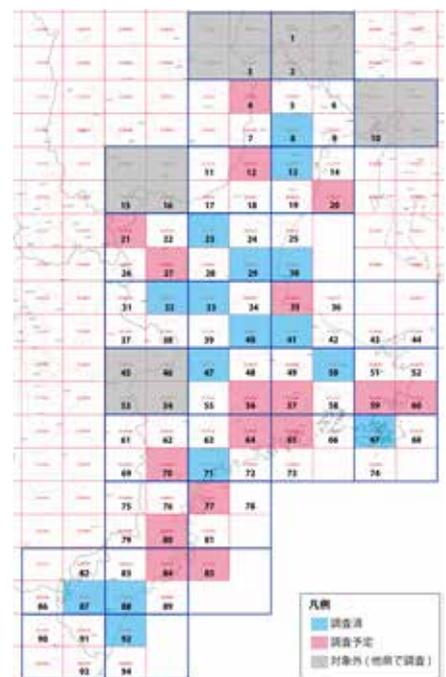


図 1 三重の現地調査の状況

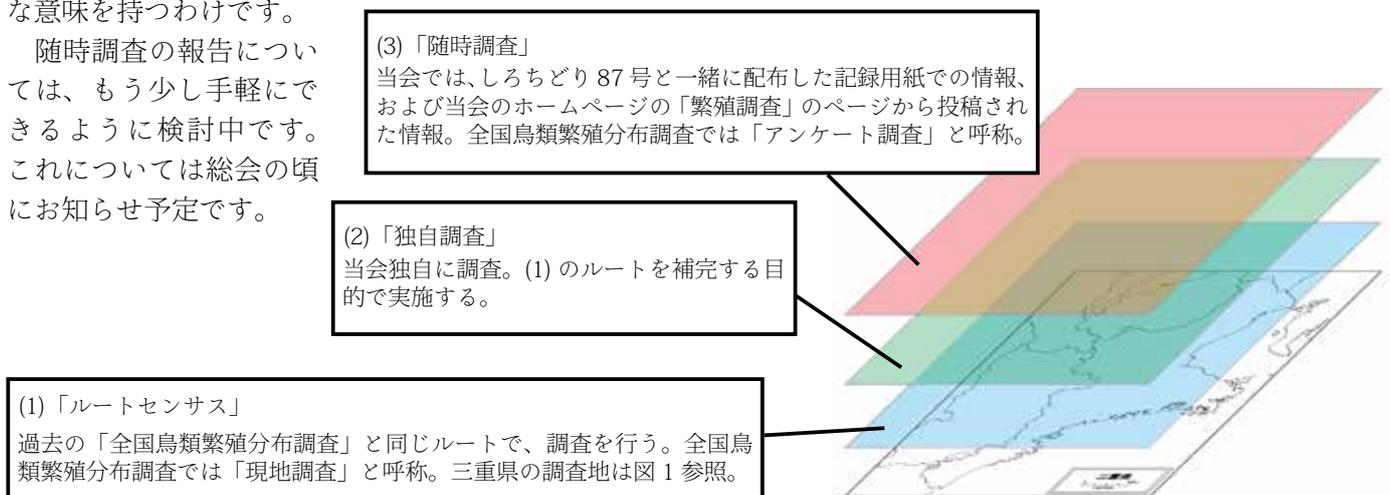


図 2 当会での繁殖調査

今冬のミヤコドリ一斉カウント結果



今冬もミヤコドリの一斉カウントを3回行った(表)。全体では110羽以上が毎回観測され、伊勢湾西岸に定着しているものと考えられる。ミヤコドリは近年、高松干潟で毎回多数見られるようになり、また、鈴鹿川河口でも少数が見られた。安濃川河口は毎回多数が見られた。また、2月の調査では阪内川河口でも多数が見られた。しかし、今冬は今まで多くの個体が見られた、雲出川河口付近では観察されなかった。以前に多数のミヤコドリが滞在した愛知県矢作古川河口でも今冬は観察されていないとのことであった。カウントごとにわずかに個体数に違いがあり、伊勢湾西岸以外の移動か、あるいは県内の観察地点以外の場所との移動がある可能性もある。干潮時には金剛川河口で見られるとの情報もある。毎回小潮の満潮時に調査しているが、鳥はほとんどが休息していた。どこで採餌しているか、ねぐらはどこなのかなど知る必要があるだろう。干潮時の生息場所も調査されていない。また、越冬する個体数も知りたいものである。

ズグロカモメは最高18羽、コクガンは8羽だった。



高松海岸

なお、2月7日に東京支部研究部長の川内 博氏が三重に来られ、県内のミヤコドリの生息する環境を見て行かれた。近々に、東京湾、三番瀬のミヤコドリの状況をまとめられるとのことであった。

調査員：安藤宣朗、今井鈴子、今井光昌、岡 八智子、奥山正次、片山賢一、川瀬浩之、近藤義孝、斎藤加代子、笹間俊秋、田中洋子、中村悦子、中村洋子、西村 泉、平井正志、前坂和子、前田 聡、前田シズ子、吉崎幸一（五十音順） 19名

(平井正志)

表 ミヤコドリカウント結果 2017年12月～2018年2月

	調査日	2017/12/11	2018/1/9	2018/2/10
	調査時間	11:00-12:00	10:00-11:00	11:00-12:00
	調査地点	個体数	個体数	個体数
ミヤコドリ	高松海岸	55	22	50
	鈴鹿川河口	6	7	6
	鈴鹿川派川河口	0	0	0
	楠海岸	0	0	0
	豊津～町屋海岸	0	0	0
	志登茂川河口	0	0	0
	安濃川河口	52	96	35
	阿漕浦～御殿場海岸	0	0	0
	雲出川河口左岸～雲出古川	1	0	0
	雲出川河口右岸～五主海岸	0	0	1
	三渡川河口～阪内川河口	0	0	22
	金剛川河口	0	0	1
	櫛田川河口	0	0	0
	松名瀬海岸	0	0	0
	東大淀～有滝	0	0	0
	合計	114	125	115
ズグロカモメ	合計	16	12	18
コクガン	合計	8	2	0
ツクシガモ	合計	0	1	2



理事会記録（要約）

2017/11/12 雲出市民センター

1. ガンカモ調査

環境省および県からの経費はなし、野鳥の会はこれまでと同じ場所を調査することとし、県と調整する。
経費（調査費）は当会で負担し、10万円くらいまで、1人3000円まで

2. チュウヒサミット

HPにプログラムを掲載した。会からの支出（約15万円）は了承された

3. 足見川ソーラー問題

署名は5,261筆 集まり、森四日市市長に10月17日に提出した。
野鳥の会が2,497名を集めた。計画地（周辺も含む）にサシバ 3つがい確認された。

4. ホームページ会員特典サービス（三曾田より）

会報しろちどりの会員向け限定でPDF高解像度版を閲覧、ダウンロードできるようにする。これは次期総会で承認を受けてからスタートする。
野鳥記録のデータベースも会員が閲覧検索できるようにしたい。

5. 繁殖調査現状（三曾田）

2017年はほとんど情報なし、総会の時に記録用紙を配布し、記録提出を促す。

6. ミヤコドリカウント日程決定した。

12月11日月曜日、1月9日火曜日、2月10日土曜日
中部各県の団体とも共同する。

7. 木曾川鳥獣保護区設定＝木曾川

木曾岬町長から、県に鳥獣保護区をはずすように要請があった。

8. 中部ブロック会議報告

三重から4名参加

9. 探鳥会名簿

年齢は削る。
カードは継続審議

10. 探鳥会の手引き（小坂）

手引を改良して次期に配布する。
探鳥会リーダーのあり方について議論した。



オオコノハズク

事務局だより

活動の記録（2017年12月～2018年2月）

2017年

- 12/11 第1回ミヤコドリ一斉カウント調査
- 12/20 玉城町勝田池ソーラー問題で県議と面会
- 12/26 紀伊長島鳥獣保護区カワウ保護管理検討会へ代表が出席

2018年

- 1/6 会報「しろちどり94号」発行・発送作業
- 1/9 第2回ミヤコドリ一斉カウント調査
- 1/9 足見川メガソーラー事業中止の署名を県知事へ提出
- 2/10 第3回ミヤコドリ一斉カウント調査

野鳥記録 (2017年11月16日から2018年01月30日までに報告があったもの)



野鳥の種類名	個 体 数	観察年月日	観察場所 (三重県)	雄/雌/など の区別	記録 報告者名	脚 注
ビロードキンクロ	3	2017年11月24日	津市白塚町白塚海岸		山神 勝治	1
シロエリオオハム	2	2017年11月24日	津市白塚町白塚海岸		山神 勝治	2
ビロードキンクロ	1	2017年11月26日	津市町屋浦海岸	雄 成鳥	玉田 浩司	3
コクガン	1	2017年11月26日	松阪市五主海岸	成鳥	玉田 浩司	4
ホオジロガモ	5	2017年12月3日	津市安濃川河口	雄1羽雌4羽	唐津 敏明	5
白いカルガモ	1	2017年12月3日	四日市市 山村ダム	雌	山神 勝治	6
トモエガモ	1	2017年12月14日	四日市市北勢中央公園	雄・成鳥	山神 勝治	7
アカハラ	1	2017年12月16日	三重郡菰野町 三滝川		矢田 栄史	8
アメリカヒドリ	1	2017年12月19日	四日市市楠町	雄・成鳥	山神 勝治	9
ハチジョウツグミ	1	2017年12月25日	四日市市北勢中央公園		山神 勝治	10
ツクシガモ	1	2018年1月2日	川越町高松海岸	雌・成鳥	山神 勝治	11
イスカ	8	2018年1月19日	津市白山町青山高原	雄3雌5	安藤 宣朗	12
ツバメ	24	2018年1月23日	四日市市西坂部町		安藤 宣朗	13
ヤマシギ	3	2017年12月27日	志摩市阿児町鷺方		森口道夫	14
アカハラ	2	2018年1月27日	四日市市北勢中央公園		山神 勝治	15
アメリカセグロカモメ	1	2018年1月11日	四日市市楠町	第2回冬羽	山神 勝治	16
トラツグミ	2	2018年1月30日	三重郡菰野町 県民の森	成鳥	安藤 宣朗	17
ハギマシコ	5	2018年1月27日	津市 安濃ダム		唐津 敏明	18

脚注

1. スズガモの群れの中に居て見つけるのに苦労したが、目の下の三日月斑を見てびっくり。雄・成長との出会いは、久しぶりでラッキーでした。雄成鳥1羽、雄若鳥1羽、不明1羽。
2. この海岸で初めての出会いで感動。もう少し近くへ来てくれると良かったが。
3. 沖合約200m(目測)を単独で浮いていました。時折潜水しては貝を捕食。
4. 単独でヒドリガモ、マガモに混じり岸辺近くで採餌。
5. 今季雄は、初確認 4羽の雌の撮影に夢中になってる途中、雄が目の前に現れました。
6. 全体が白く良く目立っていた。褐色部分も白っぽいので部分白化よりも白変と言えるのでは？
7. 2年連続で飛来したが、いずれも2～3日で居なくなったのが残念です。
8. 広い河川敷のわき、藪の地面からカサカサッと物音シロハラかなと思いきやちらりと見えたおなか
は赤かった。写真は1月22日に撮影したもの。
9. 北勢地区では、珍しく数年ぶりの飛来と思われる。
10. 芝生でツグミに混じって一生懸命ミミズのような物を採餌していた。同定は腹部の赤褐色班と
大雨覆いが一様に灰褐色であること。
11. 正月早々、近くの海岸での嬉しい出会いでした。
12. 高いメタセコイアの木々の天辺に8羽の群れが止まっていた。
13. 上空で群れ飛ぶツバメを初認、翌日同じ場所で50羽を超える群れを見た。
14. 自宅で初認2～3年続けて越冬中。1月14日まで滞在中。
15. この時期に見られることは、越冬しているかも。

16. 成鳥を見たくて探していたら偶然幼鳥を見つけることが出来た。虹彩が淡色で初列風切が真っ黒である。雨覆が褐色のライン状であった。
17. 森の中の2ヶ所で別々に観察した。
18. 積雪も幸いしてたのか道路ぎわの斜面で食事中でした、1時間位観察できました。



シロエリオオハム：山神 勝治



ビロードキンクロ：玉田 浩司



イスカ：安藤 宣朗



アカハラ：矢田 栄史



アメリカセグロカモメ：山神 勝治



ハギマシコ：唐津 敏明

宿泊探鳥会案内

5月19日(土)～20日(日) 朝明溪谷探鳥会

- 見どころ** 朝明茶屋に宿泊して、ナイトウォッチングと早朝探鳥を楽しみます。
夜はヨタカやジュウイチの声、朝はオオルリ・キビタキ・ミソサザイなどのバードシャワーを浴びながら朝明溪谷周辺を散策します。
宿泊費として一人3240円必要になります。夕食・朝食・飲み物は各自ご用意ください。
- 開催地** 菰野町 朝明溪谷
- 集合** 5月19日 18:00 朝明大駐車場
- 解散** 5月20日 10:00 集合地
- 交通** 自家用車：国道306号 → 県道762号朝明溪谷線を 道なり → 終点
- その他持ち物** 弁当・軽登山靴 コース上のトイレ なし
- 備考** 子供連れでの参加は不可。参加予約は不要です。
- 問い合わせ** 辻秀之 090-2283-2376 近藤義孝 090-7431-0563

7月7日(土)～8日(日) 富士山麓宿泊探鳥会 雨天決行！ 会員限定

- 見どころ** 1泊2日の宿泊探鳥会。1日目の朝霧高原では、草原の鳥の代表格ホオアカ、周囲の森にいるアカハラ、クロツグミ、また減ってきているというアカモズにも出会えるかも…。
2日目は標高2200mの亜高山帯で、ルリビタキ、メボソムシクイ、ヒガラ、キクイダタキ、ホシガラスなどの鳥たちを観察します。
- 開催地** 1日目：静岡県富士宮市 朝霧高原 2日目：山梨県鳴沢村 奥庭・お中道
- 集合** 7月7日(土) 6:45JR 松阪駅前—7:30 津駅前—8:40 桑名駅前
- 参加費** 日本野鳥の会三重会員 25,000円(参加人数に応じて変動)
- 持ち物** 双眼鏡、水筒、帽子、雨具、防寒具(高山のため)、筆記用具、旅行に必要なもの
- 備考** 参加人員40名 参加申込みが必要です。
- 申込み方法などの詳細は、「宿泊探鳥会のご案内」をご参照ください。
- 問い合わせ** 西村 泉 090-1566-6010 (会) 090-7030-2938 (西村)
小坂里香 090-6097-3283

木曾三川背割堤を利用する方へ

昨年末より、背割堤で鳥を観察されるために木曾川下流河川事務所で鍵を借りる方が多くなりました。それにつれて事務所に多くの苦情が寄せられるようになったそうです。

背割堤は様々な方が利用されています。野鳥の観察をされる方は以下の点に注意してください。

車を動かしながらの撮影はやめてください。

道の右側を走らないでください。急発進、急停車、蛇行運転をしないでください。

道幅の広いところで停車し、三脚等で通行を妨げないでください。

事故などがあった場合は締め切ることもありえます。と事務所の方は警告されています。

これは背割堤以外にも言えることです。マナーを守り気持ちの良い観察ができる様、心がけましょう。
(笹間俊秋)



●鈴鹿市野鳥観察会

2017年10月29日(日)

開催予定でしたが、台風22号接近による悪天候の為、中止となりました。

●中村川探鳥会

2017年11月5日(日) 9:30~11:30

松阪市嬉野一志町 中村川中流域

吉崎 幸一 小野 新子 参加者22名(会員14名)

マガモ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、イカルチドリ、トビ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、ドバト 計28種

風が強い日でしたが快晴に恵まれました。

カワセミには2ヶ所で出会え、1ヶ所ではホバリングしてエサを採り、中洲でエサを食べる所も見ることができました。やはりカワセミには参加者の感動を受けたようでした。

帰り道、道路横の稲刈りの終わった田でノスリがエサ(カエル?)をとり、近くの電線でエサを食べる所も真近で見ることができました。開催地周辺で見られるほとんどの種類が観察できた探鳥会でした。

●安濃川河口探鳥会

2017年11月12日(日) 10:00~12:00

津市高洲町 安濃川河口

落合 修 杉村 滋弘 参加者15名(会員13名)

ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ハジロカイツブリ、カワウ、シロチドリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ドバト 計28種

晴天の中15名の参加者となりました。ミヤコドリが70羽程観察できました。場所を移動して、南側の海岸沿いではミユビシギとハマシギの群れを観察できました。

●三滝川観察会

2017年11月18日(土)

開催予定でしたが、雨天の為、中止となりました。

●海蔵川探鳥会

2017年11月23日(木祝) 9:45~11:45

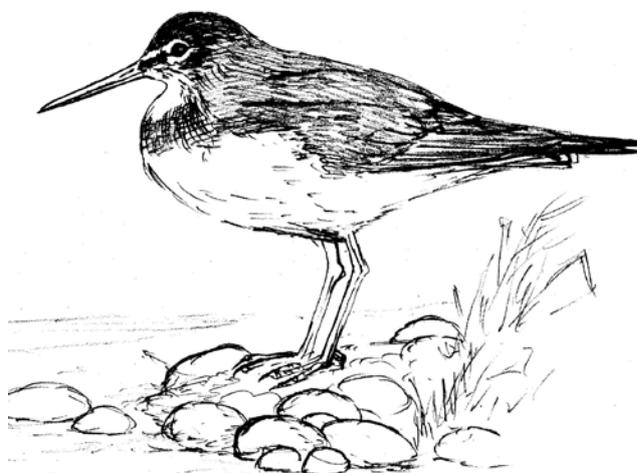
四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬 裕之 参加者10名(会員10名)

カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワウ、バン、コチドリ、トビ、カワセミ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ツグミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、マルガモ(マガモとカルガモ雑種) 計20種

前回9月が雨で中止になったので5月以来半年ぶりの開催になりました。早朝まで降っていた雨も上がり開始時間になる頃には上空の雲も切れてきました。しかし風が強く、寒い中の開催となりました。

気温が低かったので鳥の出も悪く、いつもこの時期ならカモ類が水面を賑やかしているのですが、始めはまだ見ることが出来ませんでした。その後、ようやくカワセミが川面を飛び、コガモも姿を見せてくれました。しばらくして番外編のヌートリアが水面を悠々泳ぐ姿を観察する事ができました。終盤にツグミを確認して冬が始まったなど思いながら、冬の時期恒例の鈴鹿おろしの吹く中 無事解散となりました。



クサシギ

●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2017年11月26日(日) 9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 15名(会員 8名)

オカヨシガモ(22)、マガモ(25)、カルガモ(12)、ハシビロガモ(11)、コガモ(98)、ホシハジロ(5)、キンクロハジロ(6)、カイツブリ(5)、キジバト(3)、カワウ(5000)、アオサギ(5)、ヒクイナ(1)、オオバン(19)、タゲリ(2)、ケリ(3)、クサシギ(1)、イソシギ(3)、ミサゴ(9)、トビ(1)、チュウヒ(3)、オオタカ(1)、ノスリ(7)、ハヤブサ(1)、モズ(4)、ハシボソガラス(80)、ハシブトガラス(100)、ヒバリ(1)、ヒヨドリ(20)、ウグイス(1)、メジロ(3)、ムクドリ(60)、ツグミ(10)、ジョウビタキ(1)、スズメ(160)、ハクセキレイ(15)、セグロセキレイ(3)、カワラヒワ(20)、ホオジロ(3)、ドバト(50) 計 39種

先月は台風到来でしたが、今月は穏やかな天気の中での観察になりました。最初の観察地点でヒクイナがじっとしていました。この探鳥会でも久しぶりの登場でした。猛禽類もたくさんいました。

●員弁川探鳥会

2017年12月10日(日) 9:00~12:00

いなべ市員弁町 いなべ総合学園高校の員弁川周辺

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 11名(会員 6名)

コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ケリ、イカルチドリ、イソシギ、トビ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、ドバト 計 30種

気温は低いけれど、風もなく日差しが暖かい日でした。

ノスリを追い払おうとするチョウゲンボウを観察できました。

●ベルファーム探鳥会

2017年12月10日(日) 9:30~12:00

松阪市伊勢寺町 松阪市農業公園ベルファーム

松島 雅之 加藤 恭子 参加者 18名(会員 13名)

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ミサゴ、トビ、

カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、カシラダカ 計 34種

曇りがちのお天気でしたが、風が少なく穏やかな中で快適な探鳥会ができました。

今年は西の池にフェンスが完成し水が入りましたので、カモ科の大部分はこの池に集中していたようです。

●磯部川水系探鳥会

2017年12月17日(日) 9:30~11:30

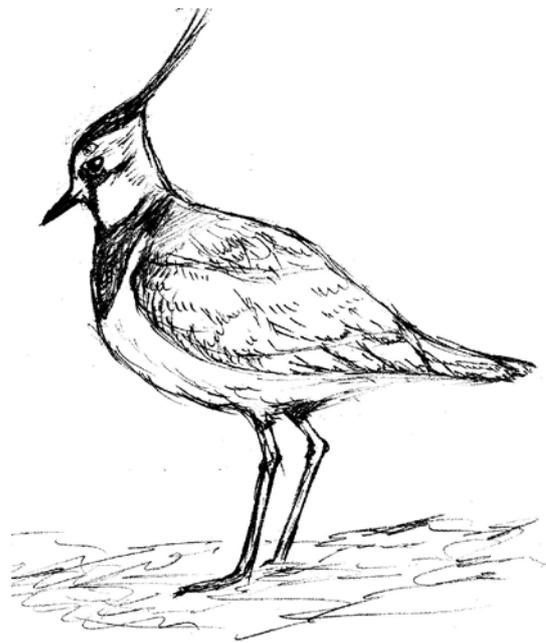
志摩市磯部町穴川 穴川~迫門~下之郷

濱屋 勝則 高木 正文 参加者 12名(会員 11名)

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、イカルチドリ、アオアシシギ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、ドバト 計 32種

前日からの天気予報では、冷え込みが厳しい1日でしょうと発表され、河川沿いではさぞ冷たい風の吹く中での探鳥会になるのではと、心配しましたが当日は思っていたより厳しいと言った感じを受けず、晴れて日差しの温かさに恵まれた探鳥会となりました。

途中で1羽のカモメを見つけた際に、カモメの識別に全員がじっくりと観察し、思う意見を交し合った場面が印象に残りました。



タゲリ

●身近な冬鳥を観察しよう探鳥会

2017年12月17日(日) 9:30~11:30

津市一身田上津部田 博物館周辺の溜池 おおさん池等

共催団体 / 三重総合博物館・三重県環境学習情報センター

平井 正志 石原 宏 参加者 25名(会員 2名)

カルガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ジョウビタキ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ 計 15種

博物館に集合し、カモなどの剥製で、鳥の体のつくりを予習し、その後、博物館周辺の溜池を回った。カモは種類が少なく、ほとんどがハシビロガモであり、コガモやマガモはなぜか見られなかった。イソシギらしいシギが見られたということであるが、種名は確認できなかった。参加者は多くなかったが、熱心な参加者が多かった。

●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2017年12月24日(日) 9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 19名(会員 11名)

オカヨシガモ(10)、マガモ(26)、カルガモ(9)、ハシビロガモ(20)、コガモ(87)、ホシハジロ(3)、キンクロハジロ(3)、スズガモ(1)、カイツブリ(4)、キジバト(1)、カワウ(5000)、アオサギ(1)、オオバン(25)、タゲリ(8)、ケリ(6)、イソシギ(3)、カモメ(2)、セグロカモメ(1)、ミサゴ(4)、チュウヒ(2)、ハイタカ(1)、オオタカ(2)、ノスリ(2)、カワセミ(2)、ハヤブサ(1)、モズ(2)、ハシボソガラス(70)、ハシブトガラス(50)、ヒバリ(2)、ヒヨドリ(30)、メジロ(3)、ムクドリ(1000)、シロハラ(1)、ツグミ(20)、ジョウビタキ(1)、スズメ(300)、ハクセキレイ(6)、セグロセキレイ(1)、タヒバリ(2)、カワラヒワ(60)、ベニマシコ(1)、ホオジロ(5)、アオジ(3)、ドバト(250) 計 44種

カワウが弥富野鳥園のねぐらから、Vの字型の編隊を組んで次から次へと出てきました。

その数約5000羽でした。ムクドリも約1000羽の群れが木曾岬干拓地で観察できました。

●上野森林公園探鳥会

2018年1月14日(日) 9:30~11:30

伊賀市下友生 上野森林公園

共催団体 / 上野森林公園・三重県環境学習情報センター

前澤 昭彦 玉田 浩司 参加者 23名(会員 5名)

オカヨシガモ、ヨシガモ、マガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、トビ、コゲラ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、カワラヒワ、アオジ 計 25種

3cmの積雪を踏みしめての探鳥会でした。四十九新池ではカモ類をゆっくりと観察しました。特にヨシガモやカルガモの翼の構造について参加者に説明しました。

伊賀地方は夜来の雪でしたが多数の参加があり、楽しいひとときを過ごしました。

●県民の森探鳥会

2018年1月27日(土)

ここ数日來の寒波で、当日朝も自宅前の道路は凍結していた。低温かつ強風でもあり、中止の判断をしました。HPにも中止の旨のせていただきました。

●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2018年1月28日(日) 9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 14名(会員 4名)

オカヨシガモ(50)、マガモ(5)、カルガモ(2)、ハシビロガモ(25)、コガモ(85)、ホシハジロ(7)、キンクロハジロ(6)、ミコアイサ(3)、カイツブリ(2)、ハジロカイツブリ(1)、キジバト(5)、カワウ(10)、アオサギ(3)、オオバン(13)、ケリ(10)、タシギ(1)、イソシギ(3)、カモメ(2)、ミサゴ(4)、チュウヒ(3)、ノスリ(3)、カワセミ(1)、モズ(2)、ハシボソガラス(70)、ハシブトガラス(10)、ヒバリ(5)、ヒヨドリ(10)、ウグイス(1)、ムクドリ(150)、ツグミ(40)、ジョウビタキ(3)、スズメ(300)、ハクセキレイ(5)、セグロセキレイ(1)、タヒバリ(5)、カワラヒワ(20)、ベニマシコ(3)、ホオジロ(10)、アオジュリン(3)、ドバト(120) 計 40種

観察地点の近くのヨシ原に、ベニマシコやアオジュリンがいました。チュウヒも3羽姿を見せてくれました。

●大淀海岸探鳥会

2018年1月28日(日) 9:30~11:30

多気郡明和町 大淀海岸

中村悦子 参加者9名(会員6名)

ヨシガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ハジロカイツブリ、キジバト、ヒメウ、カワウ、アオサギ、オオバン、シロチドリ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、カモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ 計33種

前日までの強い風はありませんでしたが、くもり空で底冷えのする天候でした。カモ・カモメ類はいつもより数が少なく、テトラのウは12羽のうち2羽のヒメウを観察しました。

肌寒いなか初参加の方が2名来ていただき、33種観察できたのでよかったです。

追記 探鳥会終了後に4名が山大淀海岸へ立ち寄って、コクガン4羽を確認しました。



ヨシガモ

原稿募集中

しろちどり編集部では会員からの原稿を随時募集しています。送付先は以下の通りです。

【e-mail】 post@miebird.org

【郵送】 〒514-2325

三重県津市安濃町田端上野910-49
平井正志

なお、誌上では著者本人の名前で掲載するのが原則です。また、記事のレイアウトは編集部におまかせください。MSワードなどでレイアウトした原稿を送っていただいても、その通りに掲載できるとは限りません。レイアウトについて著者の要望があれば、お伝えください。なるべく、要望に沿える様にいたします。

編集後記

昨年の暮れ、津の町へ出た帰り、混雑を避けて、たんぼ道を帰った。安濃川の左岸には電柱もない水田が広がっている。車を止めて双眼鏡で覗くと、1羽のチョウゲンボウが羽ばたいていた。折からの西風の中、懸命に羽ばたいている。上下にあるいは左右に位置を変えながら、相当長く羽ばたいていた。しかし、獲物は見つからなかったのか、やがて、翼をひるがえして山の方に消えていった。

思えば、広い水田の風景は胸の奥に沈殿している。中学生の頃、愛知県の安城から岡崎まで自転車で行ったことがある。濃尾平野の米作地帯である。その帰り、上空で鳥がぶつかって、羽毛が飛び散ったのを見た。今から思えば、ハヤブサがドバトを落としたのであつたらう。水田の上は広い空であつた。

長じて、静岡の清水に就職した。休日のほとんどは富士の裾野に広がる湿田と葦原の浮島沼に通った。夜明けのコミミズク。刈り後の水田の地上すれすれを飛ぶ青い翼のコチョウゲン。じっと獲物を狙うササゴイ。1人で心ゆくまで鳥を楽しんだ。

こんな風景がいつまでも続いてほしい。若い世代の心に沈殿するような。

今回の「しろちどり」も編集子、会員諸子の協力で発行にこぎつけた。もう春である。冬鳥は去り、やがてツバメが渡り来る。(M.H.)

しろちどり 95号

2018年3月10日発行

題字:濱田稔

表紙絵:西村泉

カット:平井正志

編集:平井正志・笹間俊秋・三曾田明

発行所:日本野鳥の会三重

平井正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印刷:株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市